

## ビジネス日本語研究会 2019 年度活動報告

2019年度はハノイを皮切りに「アクティブラーニングによるビジネス日本語教育」をテーマに3つのセミナーを行った。また、2つの研究会を行った。

### 1) 国際セミナー「アクティブラーニング—ビジネス日本語教育を中心に—」

講師派遣：奥田純子、近藤彩、栗飯原志宣、堀井恵子

日時：2019年5月10/11日(金)

場所：ハノイ貿易大学(ハノイ)

2019年5月10日～11日にベトナムハノイ貿易大学日本語学部主催の日本語教育研修「アクティブラーニング～ビジネス日本語教育を中心に」が開催され、ビジネス日本語研究会から、奥田純子、近藤彩、栗飯原志宣、堀井恵子の4名が招聘され、講師を務めた。基調講演の當作靖彦氏のアクティブラーニング(以下、AL)についての理論と実践についての興味深い講演に続き、現在のビジネス日本語教育研究の状況の上にもどのようにALを取り入れたらよいかを含む、実践報告とワークショップによる研修に、ベトナム全土から100名近い教員が集まり、熱心で活発なやり取りが行われた。

ハノイにしては珍しく涼しい2日間、ベトナムの先生方や、ハノイ貿易大学Thuy先生、Loan先生との今後のベトナムにおけるビジネス日本語教育への協働についても協議が行われた。

研修の内容は日本向けの内容にカスタマイズのうえ、BJキャラバンセミナーとして、7月6日(土)武蔵野大学(東京)、10月5日(土)漢字ミュージアム(日本漢字能力検定協会、京都)において開催された。

詳細は研究会HP：<http://business-japanese.net/> をご覧ください。



### 2) 第27回研究会：「東南アジアのビジネス日本語教育—これから何が求められるのか—」

日時：2019年6月8日(土)

場所：武蔵野大学有明キャンパス

第27回研究会は、東南アジア4か国(ラオス、カンボジア、タイ、インドネシア)の日本語教育の第一線で活躍中の先生方をパネリストに迎えた。少子高齢化時代を迎え入国管理法が改正され多文化共生の必要性が高まっている今、ビジネス日本語教育に何が求められているのかを各国のパネリストと一緒に考えるという趣旨説明の後、パネリストの自己紹介と国の紹介に続き、ビジネス日本語教育の現状と課題についての発表があった。課題としては、学習時間の不足、指導者の不足、カリキュラムと学習者のニーズのギャップ、企業との連携の必要性等が

挙げられた。質疑応答では、日本語学習者はいつから日本語を学び始めるのかといった各国の日本語教育事情に関する質問から、ビジネス経験のない人を研修でビジネス日本語の教師に育成することができるかといったビジネス日本語教育が抱える課題の解決方法など、多岐にわたる質問について、意見交換が行われた。

日本国内では、なかなか聞くことができない東南アジアの日本語教育の現場の話を知ることができたが、印象的だったのが、パネリストの先生方の大学の卒業生の日系企業への就職率の高さ（80～90%）だったことである。質疑応答の後に、交流タイムも設け、盛会のうちに終了した。詳細並びに当日のPPTは、研究会ホームページに掲載されている。

このほか、ホームページのリニューアル、合わせて、ビジネス日本語教育研究リストの更新を行っている。<http://business-japanese.net/>